

月刊反トマホーク通信

No. 42
89. 4. 20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095 044(63)5101 FAX_044(63)9907
郵便振替 東京6-136148



絵：キャロル・モイセウィッチ (Tok Blong SPPF 1988 #22 より)

- 北西太平洋に軍縮の流れを作り出そう！
- [ソ連発]核艦船を止めた市民と自治体／原子力船であわやメルトダウン
- ビデオ紹介：NUWAX83（核兵器事故対策演習実況記録）／シドニー平和船団—平和を求める声
- 反核ホットラインだより
- にゅうす・すぴりっと

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）	●参加会員（月間会費）	●通信会員
団体 1口 2000円	団体 1口 1000円	年間 1口
個人 1口 1000円	個人 1口 500円	2000円

あなたも仲間にも！（会費は本誌購読料を含みます）

アピール

もう署名はすみましたか？

北西太平洋に軍縮の流れを

作り出そう

寄せられた
意見・提案から

アピール「北西太平洋に軍縮の流れを作り出そう」には四月二十三日までに一七五人の方々から賛同のご返事がありました。具体的な行動提案、意見も多く寄せられています。当初、締切日を四月末としておりましたが、これを五月半ばまで延長し、より沢山の人間にこのアピールを広げようということになりました。

そこで今回も、反トマ通信にアピール文と返信用ハガキを同封しました。まだのかたは是非この機会に、もうお済みのかたはお知り合いにおすすめてください。

そして、アピールの内容を実現する、具体的な行動のイメージをよくらまさせていきましょう。

行動がおこせたらと思います。日本の軍縮政策を口先だけでなく、中身のあるものにさせるように。(K)

二十一世紀に甘い幻想を持つてはならない。そうでなくとも大気、海洋の汚染で地球は荒れつつあるとき、まして核兵器などもつてのほか、人類すべて真剣に未来を恐れなければならぬ。(G)

日本国憲法の精神を再確認することから始めるべきだと思います。すべての人が憲法を勉強しましょう。(G)

「公海の非核化」は私たち国民、地球人の悲願だと思います。ぜひやりたいこと、やってほしい事があります。とりあえず、日本とアメリカの政治機関に、軍事に関する詳細なアンケート用紙を国民に配布してもらい、予算増額ストップ、減額実施を働きかける運動をしてほしい。(T)

五月になったらアピール賛同者の会議を開き中期的な目標について討議(またはシンボ)したらと思います。(N)

目標への追加:「新年度予算で着工される

今回のアピールの文章はともいいたいと思います。わかりやすく、しかも具体的に現在の状況を適確に示しています。アピールの実現にはどれかひとつを突破口にすべきだと思います。(I)

アピール「北西太平洋に軍縮の流れを作り出そう」を読んで、改めて日本は主体性を失い、断末魔の症状にあると恐怖を感じました。脱原発と表裏一体となって、運動を進めなくてはと痛感します。(O)

時宜を得たアピール、お骨折りがとうございます。八月十五日にむけて、世に訴え

横須賀基地(海自)での対潜情報探知設備の阻止。(H)

「一つの運動というのではなくてさまざまなイニシアティブの運動が対話し、交流しながら大きくなっていくようなうねりを創ること」の言葉は基本的なことだと思います。(M)

もみじ葉のご指摘うひ孫の手ペン握るべし銃持たすまじ。(M)

軍備・戦争は自然破壊の元凶です。軍備予算を地球規模の環境保全に切り替えましょう。アマゾンの熱帯雨林の焼畑をただちに止めさせるよう、経済援助をしましょう。(Y)

アピールの文案の内容には何ら反対はありません。全部賛成です。ただ、今の状況の中で、これだけを、これだけにしぼってアピールすることに、少し違和感があります。一月十六日の「朝日新聞」に乗せた意見広告の文案ぐらいいろいろなことを一度に言いたいと思います。(Y)

非核・軍縮と南北問題の解決なくして世界の平和も経済の発展もない。(W)

賛同人

(四月二十三日現在)

- 赤木惇子/秋富不二男/阿部四郎左工門/荒川澄/安藤重伸/池山重朗/井沢幸治/石黒寅毅/市川誠/伊藤孔央/伊東成彦/伊藤博/稲垣康夫/井上清/井之川巨/今川正美/岩井章/岩松繁俊/上原淳道/浮田久子/氏家久博/内田政雄/内山尚三/梅林宏道/江尻美穂子/江成純/遠藤洋一/大石武一/大江みち/大河原孝一/大久保青志/大下由官子/大島薫/大田伊杜子/太田修平/大谷勝彦/大谷正穂/尾形憲/小笠原英三郎/小笠原公子/岡田義雄/沖三保子/小田切秀雄/小田実/小原悟/海田修三/鏡豊/梶谷善久/柏陽太郎/加藤隆通/加藤良夫/金子和雄/金箱牧夫/神坂玲子/川村一之/川北寿子/川原英司/北沢洋子/儀同保/木原省治/木村京子/木村武志/日下部信雄/草野信男/具島兼三郎/国井誠海/久保文/栗野鳳/栗原貞子/小池多米司/小石玲子/小泉譲/小岩貞義/小園小夜子/小寺山康雄/小林収/五味久雄/近藤悠子/斎藤鶴子/斎藤信明/斎藤美智子/坂田静子/佐々木竹一/沢光代/柴田都子/芝実生子/島田信子/東海林勤/新村

- 猛/鈴木祥蔵/鈴木達夫/成在龍/高見圭司/高柳信一/高良真木/田口一成/竹村奈子/田島征三/田中翠/田中幸男/谷津志津/田巻一彦/田村清/津々良/涉/寺尾光身/田英夫/戸井昌造/鳥居和/鳥海豊/富田はるみ/中北龍太郎/中里喜昭/仲田隆明/中村良一/中村文江/浪江度/新倉裕史/西田理/野副達司/萩原卓/長谷川敏三/幡鎌芳明/服部学/服部翠/原田隆二/土方皓/兵藤建樹/平井孝治/深水正勝/福地曠昭/舟越耿一/細川正義/堀端宏/前田哲男/前野良/横枝元文/松江澄/松尾孝和/松木傑/松下竜一/松谷被鐘/丸岡礼子/三井マリ子/皆川みずゑ/宮崎昭/宮崎茂/宮本なおみ/武藤一羊/宗像基/毛利淳二/もののべながおき/森静雄/森滝市郎/森哲郎/森脇隆赫/山田謙治/山田紀子/山本健治/山内栄治/山中悦子/山辺賢蔵/山本正美/湯浅一郎/行宗一/行森潔/横原由紀夫/吉井弘子/吉池公史/吉岡徳次/吉川勇一/吉田嘉清/吉田満智子/芳野よし/脇信男/渡辺峯



太平洋演習 PACEX 反対の行動を!

三月二十四日の「毎日」によれば、防衛庁は今年の秋に行われる「太平洋演習(PACEX)」に参加する方針を固めた。「憲法で禁じられた集団自衛権にふれないよう、あくまで日本有事を想定した限定的参加」としているが、これはごまかし、アメリカの描くシナリオ全体の中で「この部分は日本だけの有事」と切り離すことなどできるはずがない。

この演習はアメリカを中心にフィリピン、韓国、タイ、オーストラリアなどの参加も実現込まれ、期間は九月一日から二ヶ月。太平洋では史上最大規模のものになる。日本の軍拡、日米軍事協力の集大成である。

世界に緊張緩和の方向へと動いている今、なぜこんな戦争ゲームが必要なのだろうか。

チームスピリット 基地監視 情報

チームスピリット演習と前後して韓国では民主統一運動、労働運動、学生運動に対する弾圧強化策が次々と打ち出された。例年より規模が縮小され、「緊張緩和で曲り角」(三月十五日「朝日」)ともいわれたこの演習の反民衆的役割があらためてくっきりと浮かびあがったのが今年ではなかっただろうか。北を訪れ帰国後に逮捕された文(ムン)牧師の行動は、朝鮮半島の統一への熱い想いを全世界に伝えた。

日本の基地はどう動いたのか、横田基地を監視した田島勉さん(チームスピリット89反対闘争三多摩実行委員会)は次のようにレポートしている。

基地監視は、二月二十六日から三月十二日まで行った。初日の二月二十六日には、核司令機E-4Bの姿が目についた。E-4Bの飛来は三年連続で、今年は駐機している日数が長く、離陸するまでエンジンを掛けっぱなしで、その後を追うようにK-135が離陸していった。

一番離発着が激しかったのは、三月八日で、次は三月九日。八日はC-141輸送機の発着が十五回と最高。この期間はチャーター機の発着も多く、これらの飛行機には多数の兵士が乗っていることが確認されている。

ここ数年の傾向として、チームスピリットの山場である上陸作戦日(今年は三月十四日)の二週間前が一番離発着が多い。今年もそのパターンといえよう。

今年のチームスピリットの期間発表では、クライマックスの野戦演習期間が短くなった印象を与えているが、監視の結果は例年どおりだということを表している。

EX演習を中止させよう!

すでに、アメリカ太平洋岸などでは市民が反対のために動き始めている。日本でも、大きな反対世論を起し、自衛隊の参加を止めさせよう。海を越えた民衆の連帯の力でPZC

●海外から ソ連 核艦船事情

太平洋岸の四港 原子力船の 入港を拒否

ロサンゼルス・9142 89.3.9

「モスクワ発」ソ連の原子力貨物船が同国太平洋岸の四つの主要な港で、原子力の安全性をめぐる大衆的な反対の結果入港を拒否されている。

就航二ヶ月のSevmorput号は、ナホトカ、ヴォストク二、マガダンで入港を拒否されたのち、十日にわたってウラジオストク沖に停泊していると伝えられている。

これはウラジオストク市当局が同船の入港を拒否したため。同市の決定は「ソビエト」

訳*編集部

ノルウェー沖でのソ連原子力潜水艦沈没事故は海底での「戦争ゲーム」の悲惨な結末の一つを示した。海に展開された原子炉、核兵器に対する関心と、それらの撤去を求める世論は、今、東西の体制を越えた大きな潮流となりつつある。

モスクワ発のニュースを二つ紹介しよう。一つは、すんでのところであつた核事故の恐怖、もう一つは原子力船の入港を拒否した市民と自治体のがんばりについてである。

登場する砕氷船、貨物船はいずれも軍事利用の比重が高いため、「ジェーン海軍年鑑」は「軍艦」に分類している。同年鑑の編集者はそう分類して良いかどうかをソ連政府に問い合わせたが、異議申し立てはないとのことだ。

ロシア」紙によれば、原子力に対する恐怖の高まりを反映する「前例の無い決定」であった。

ウラジオストク市議会は原子炉の安全性が明確に保証されないかぎり同船は港外に止まるべきであると主張した。これに対して海運省は安全性保証の要求を黙殺した。

ソ連の複数の報道機関は、この超近代的な船を「宿無しの漂流船」と表現し、もはやソ連極東部のどの港にも入港できないのではな



いかと示唆している。

八五八フィートの同船が入港しようとした他の港では、港湾労働者が放射線被曝の恐れを理由に一切の荷役作業も、補給サービスも行わないと宣言した。

現地とモスクワの共産党、政府、および報道機関にはおびただしい数の請願と投書が殺到した。これは、同国にとっては最も大規模な大衆的抗議行動の一つとなった。

「情報の欠如、船の安全性の不確かさ、チエルノブイリの悲劇の目に見えない影、そして極東部の複雑な生態的条件。これらが大衆的な決起の引き金になった」と「ソビエト」

ロシア」紙は報じている。

二億六千五百万ドルを投じたこの船は、就航前にはその近代性のゆえにソビエト商業船団の誇りと言われていた。しかし、結局は活動を予定していた地域で母港を拒否されてし



第五回

混迷するFSX日米交渉

—置いてきぼりの日本国民—

全国運動情報コーディネーター
青木雄彦(京都市)

F SX (次期支援戦闘機)の日米共同開発の最終合意が暗礁に乗り上げて、水面下で様々な駆け引きが行われている。昨年11月29日に両国で交換公文が調印されそのまま開発がスタートするかと思われたが、米議会や商務省から米国の技術流出の懸念から合意事項の見直しが出されているためだ。

も ともとFSXは日本が自主開発する意向であったが、アメリカ側の圧力(その中には「日本が高性能の攻撃機を持つのは専守防衛に反する」という87年6月のワ国防長官の「正しい」指摘もあった)でゼネラル・ダイナミクス社のF-16の改良型を共同開発するよう日本側が譲歩を強いられたものだ。この問題は所謂「ハイテク軍事技術摩擦」として多くの関心を集めているが、総額一兆円ともいわれるこのプロジェクトの「スポンサー」の日本国民はこの問題で終始蚊帳の外に置かれてきた。ここでは日本国民にとってFSX

とは何であるのかという本質的かつ基本的な、そしてあまりに報道されることの少なかった問題をとりあげたい。

ま ず何よりのゴマカシは日本独特の「支援」戦闘機という名称である。外国では「戦闘爆撃機」若しくは「攻撃機」と呼ばれるが、敵艦船や、地上の目標を攻撃するのが主任務。現在はこの任務をF-11という戦闘機が引受けているが、問題となるのは戦闘行動半径(対地対艦攻撃時)で、F-11の五五〇海里に対してFSXでは八三〇海里で、配備予定の三沢から沿海州、サハリンを、築城から北朝鮮を攻撃範囲に収めることができる。「他国に脅威を与えない」専守防衛の建前からの根本的逸脱である。しかもFSXは、F-11の2倍の武器搭載量に加えて、敵のレーダーに捉えられにくくするためステルス性を付与する計画なのだから、これまで自衛隊が保有してきた兵器の中で飛び抜けて攻撃的な兵器と言える。

も う一つの問題は、安全性。これまで自

衛隊の戦闘機は人口密集の住宅地の上を飛ぶという日本独特の問題を考慮して、エンジンには必ず2基搭載のものを採用して、1つが故障しても直ちに墜落しないようにしてきた。FSXはF-16をベースにするため、エンジンは単発。すでに三沢には米軍のF-16が配備され何度か墜落事故を起こしているが、これに自衛隊のFSXが加わり六カ所村の核燃料サイクル基地(計画中)の上を飛び回るのだから、戦時でなくとも物騒なことこの上ない。

さ らに、日米の武器の共同開発によって、日本の武器技術が第三国に「輸出」される可能性(米に対しては83年11月に武器技術供与を認めている)が大きく、SDI参加と並んでこのFSX問題は日本のハイテク技術が直接軍事利用され、世界の武器市場に「進出」するきっかけとなるだろう。

1兆円の大金を防衛庁・制服組、軍需産業にふんだくられ危険極まりない攻撃機を押しつけられ、さらにアメリカの理不尽な要求を飲まされる日本の納税者はまさしく踏んだり蹴ったりだが、唯一の「慰め」は、日本の利益とアメリカの利益は常に一致すると説いてきた政府の「日米安保予定調和説」が遂に破綻したことだ。(一九八九年四月十八日記)

おすすめVIDEO その1 ニューワックス NUWA X 83

核兵器事故を考える 必見の原資料

△経過▽

このビデオテープを製作したのは、アメリカ国防省核兵器局(DNA)である。ビデオテープの字幕には、こう書かれている。

『このフィルムは一般市民には公開されない。核事故防災計画に関係するアメリカ政府機関、州組織、地域自治体組織に限定配布される。それ以外にこのフィルムを要求する者は、ワシントンDC、核兵器局広報事務所に問い合わせをすること。』
つまり、このフィルムは核事故防災を担当する行政組織の内部資料として作成されたも

のである。アメリカの民間団体が、それを情報公開法により入手した。これに先立つ数年前に、国防省の核事故演習のビデオが存在することを知って探していた私たちは、PCDS(「海の軍備撤廃を！太平洋運動」)の会議の中で、やっとその実物とめぐり会った。

△内容▽

一九八三年に行なわれたDNA主催の核事故演習ニューワックス83(NUWA X 83)の実況記録である。
事故のシナリオは次のようなものである。核兵器三発を輸送していた海軍のヘリコプターが、ある市の郊外で墜落した。三発のうち

ちの一発の核兵器の高性能火薬が爆発しアルトニウムを飛散させるとともに、もう一発の核兵器を機外に放り出した。三発目の核兵器は、そのまま墜落したヘリコプターの中に留った。
住民は大爆発音を聞き、ヘリコプターの墜落を目撃した。パイロット他死傷者も発生した。

ブローケン・アロー(核事故の暗号名)が発せられ、あたり一帯が国家防衛地域(ND A)に指定された。一種の戒厳令地帯である。さて、政府、州、地元自治体はどうするか、というのが訓練の内容である。

この演習をやるのに、DNAは、ネバダの核実験場に人口七千人の人工の町バージニア州ジェファソン郡ポートガストンを設置した。核実験場を使ったのは、演習を現実近づけるために、実際に半減期の短い放射能を散布したからである。
約九百人が、さまざまな役割を演じながらこの演習に参加した。

△見どころ▽

このフィルムはアメリカ政府が核事故をどの様に考えているのかを知る上で、この上なく貴重な資料である。アメリカ政府の考え方

を知ることによって、日本での核事故について、私たちが何を考えなければならぬかがわかってくる。嘯みしめれば嘯みしめるほど恐ろしくなるフィルムである。

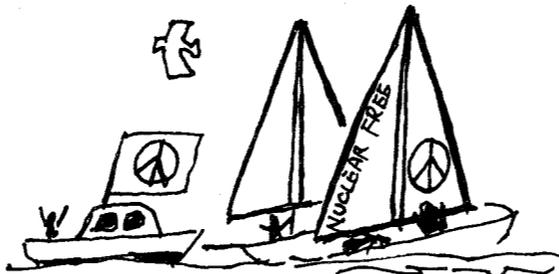
◆いつ核の存在を明らかにするか。核の存在を否定も肯定もしないという国防総省の原則の例外として、この演習においてもある時点で核兵器の存在が一般市民に明らかにされる。その判断の背景となる国防省の考え方がフィルムで明らかにされる。

◆いつ安全宣言を出すか。三ヶの兵器のうち一つが爆発、他の二つは何時爆発するか分からない状態にある。核兵器という核爆発だけが恐ろしいのではない。高性能火薬の爆発によるプルトニウム汚染の重要性を念頭に入れる必要がある。

◆人命と機密保護。核事故が起こったときに、国防省が考える最も中心的な関心事の一つは機密保護である。核兵器に関する機密情報の保護がすべてに優先して行なわれ、そのために住民への事故対策が遅れる。

おすすめVIDEO その2

シドニー平和船団 — 平和を求める声



一九八二年、「太平洋平和号」というヨットがシドニー港を出発した。アメリカ北西海岸でのトライデント潜水艦の就航と、モルコア環境でのフランスの核実験に反対するためである。その乗組員の一人、ウィン・オリブさん(六十三才)へのインタビューで、このビデオは始まる。

「航海はとってもおもしろかったわ。私たちは、トライデント潜水艦の真ん前にたちふさがるつもりでした」。地上のINF(中距離核戦力)の削減が始まる一方で、トマホークを中心とする「海のINF」が大幅に増強されつつある事を、こ

◆自治体の参加。演習では事故に真っ先に対応しなければならぬ自治体との調整が本格的なテーマになっている。これは、その後のアメリカ会計検査院の勧告にもつながる。

◆日本の基地との関係。ここで事故にあつた核兵器は投下型の核爆弾

4.20 9時(9)

米戦艦 アイオワ爆発 死者は47人

【ワシントン十九日〇島田特派員】大西洋上で訓練中の米戦艦アイオワ(四五、〇〇〇ト)が十九日朝に砲塔部分の爆発事故に巻き込まれ、米海軍は同日午後一時ごろ、プエルトリコの北東約五百三十キロの大西洋上で射撃訓練中、一六〇発の約四十分の砲撃訓練中、砲塔下の爆発事故を起した。これまでに四十七人の死者が砲塔内で確認された。

国防総省はたんに調査団を現場に派遣したが、同艦の航行に支障はなく、沈没の恐れもないう。発表によると、アイオワは十九日午前十時(日本時間同日午後十一時)ごろ、プエルトリコの北東約五百三十キロの大西洋上で射撃訓練中、一六〇発の約四十分の砲撃訓練中、砲塔下の爆発事故を起した。これまでに四十七人の死者が砲塔内で確認された。

重傷者は数十人に及ぶ。アイオワは西大西洋を配備区域とする米第一艦隊に所属。十三日午後四時までの予定で、米、ブラジル、ベネズエラ、の合同海軍演習に参加していた。関係者の証言などをまとめる。事故当時、射撃を担当する砲塔内要員と、砲塔下の船倉付近に格納してある砲弾や火薬類の燃焼が見られている。

爆発場所のブリッジを挟んだ後ろ側にはトマホークがあるのだ!

のビデオはわかりやく伝えてくれる。

アメリカ政府は一九九二年までに、艦隊の三分の一に四千発のトマホークを装備しようとしている。これは先制攻撃用であり、核戦争への危険性を高めるものだ。またトライデント潜水艦は一隻でヒロシマ型原爆二千個分の破壊力を持つが、アメリカ海軍は数年のうちこれに二隻も配備する計画である。

「海の核」を巡る確執はまた、そこに住む先住民の人々の犠牲と抑圧のうえに押し進められている。

しかし、それらに対する草の根の反撃もすばらしい。ニュージーランドの平和船団に刺激され、シドニーでも一九八五年からヨットやカヌー、サーフボードなどによる平和船団が活動を始めた。それに対するアメリカ軍艦からの激しい放水、サーファーたちを掴まえようと走り回る水上警察のモーターボート。虹色のピースマーク旗をなびかせて応戦する平和船団の勇姿などは、見るものの手に汗をにぎらせるにはおかない。

軍艦のへききにつかまってサーフィンをやったり、ビデオ・カメラを抱えハンドグラブで軍艦上を飛ぶといったシーンには、思わず拍手したくなる。これらの一見向こうみずな行動も、事前の徹底した話し合いとトレーニングなしにはあり得なかつたものだろう。

ないし核爆雷B57とサブロックで、いずれも最もポピュラーな海軍核兵器。日本への持ち込みが日常化していると思われる兵器である。また演習でも事故現場に駆けつけて核兵器の処理に当たるEODチームが登場するが、これは、横須賀や横田にも存在するとして二年前に大騒ぎになったことがある部隊である。(梅林宏道)

オーストラリア国民の核艦船寄港に対する意識は、ここ数年で大きな変化を見せている。

すなわち、八十四年には核艦船寄港に賛成する人は八〇%にのぼったが、八十八年にはこれが二十四%まで落ち込んでいるのだ。インタビューにに応じた多くの人が、港における核事故の可能性を口にしてもいる。

ビデオはウィン・オリブの次のような言葉で締めくくられる。「地球に対する責任を、それを真に担える人々の手に渡すべきです。軍艦の前に立ちふさがり、これが一番いいやり方なのです」。核をなくしたいと願っているすべての人に見てもらいたい感動の作品。

(一九八八年、二十分)

◆感想

我々は堂々と歩み続ける...

和田都 (岡山市 生協職員)

アメリカの核艦船が自国の港に入らないのはなぜか。核戦争になった場合、核を運搬する艦船も目標になる。そのときこれらの艦船が自国の港に入っていないのは被害が大きくなるので、遠い国に寄港させるといふ。また艦船

会計報告

(89.3.15 ~ 4.13)

[収入]

○前月からの繰越	△101,374
経常繰越	148,626
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	162,010
会費収入	90,000
内	
維持団体	0
維持個人	22,000
参加団体	12,000
参加個人	27,000
通信会員	29,000
カンパ収入	8,000
行動収入	54,810
(チームスピリット・ハガキ運動)	
在庫品売り上げ	1,200
反核ホットライン	
売り上げ	8,000

[支出]

●今月の支出	△192,439
家賃(4月分)	40,000
水道光熱費	2,959
電話代	8,074
郵送費	31,937
印刷費	78,882
行動費	28,447
郵便振替等手数料	2,140
●次月への繰越	△131,803
経常繰越	118,197
借入金繰越	△250,000

での核事故も頻繁に起こっているらしい。あまりに虫の良い話ではないか。こんな要求は世界中どここの国も受けたくないだろう。日本では、艦船の寄港のたびに核の有無が問題にされながら、今までうやむやにされてきた。ニュージーランドではそれがはっきり拒否されて、国民の安全が保障されている。ところがその隣のオーストラリアでは、近年国民の反対の世論が高まってはいるもの。いまだにアメリカ・イギリスなどの核艦船が港に入ってきている。その阻止に素手に近い状態で(カヌーやサーフボードに乗って)繰り出していく人々の姿には、胸を打たれざるをえない。

現在わたしたちは、核時代に生きていることは認識しながら、自分一人心配してもしょうがない、第一自分に何が出来る、何が変えられる、と心のすみでは考えている。しかし、核戦争や原発におびえながらも何もしないで生きるよりは、そんなものがない世界を創るために努力しなければならぬのだと、このビデオを見て痛感した。ビデオの最後に繰りかえし歌われた次のようなことがつよく印象に残った。
「我々は堂々と歩き続ける／堂々と歩き続ける／我々は堂々と歩き続ける／あともどりはしない／決してあともどりはしない／我々は変革のために手をとりあう／変革のために

手をとりあう／我々は変革のために手をとりあう／あともどりはしない／決してあともどりはしない...」。

シドニー平和船団

—— 平和を求める声

- ◆20分/VHS
- ◆販売価格 3500円(送料別)
- ◆貸し出しもあります

NUWAX83

- ◆30分/VHS
- ◆貸し出し 1回2000円

いずれも日本語ナレーション付き
お問い合わせはトマ喰い虫社へ!

月刊反トマホーク通信 第四十二号

一九八九年四月二十日発行(通巻四十二号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二丁目一五〇九
パル青山五〇二 トマ喰い虫社

◎三(四九八)六〇九五
◎四四(六三)五一〇一
FAX〇四四(六三)九九〇七

*編集 反トマホーク通信編集委員会
郵便振替 東京六一三六一四八

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)